

皆様いかがお過ごしでしょうか。今回は、東京都にある横田基地を紹介いたします。

元々は1940年に大日本帝国陸軍の航空部隊の飛行基地で、多摩陸軍飛行場として開設しました。戦後、連合国軍に接收された後、在日アメリカ軍の司令部が置かれている東アジアでのアメリカ軍の主要基地となっています。2012年からは航空自衛隊司令部も常駐するようになり、日米両国の空軍基地になっています。ここは、福生市、瑞穂町、武蔵村山市、羽村市、立川市、昭島市の5市1町にまたがる、総面積7,136km²の広大な基地です。沖縄県以外では日本国内で最大のアメリカ空軍基地となっています。(基地内には当然入れないため、周囲を車で走りましたが、なかなか途切れない堀に広さを実感しました…)

日米地位協定に基づいて、アメリカ軍人は出入国管理の手続きが必要ありませんが、軍属や家族については入国時にパスポートが必要ようです。また2017年にトランプ大統領、2022年にはバイデン大統領が横田基地から出入りしていますが、彼らもアメリカからの出国、日本への入国の手続きはしていないそうです。都心のすぐ近くにこれだけ広大な基地があるのも、様々な歴史的背景があつてのことだと改めて感じました。

東日本営業本部(部長:高橋 鉄夫)

KOYORAD

世界の拠点から
-From the base in the world-



そろそろ雪代も落ち着いてきた頃合いかと思い、今年初の溪流釣りへ行ってきました。今回は急に思い立ったこともあり、私一人での釣行となりましたが、ひとつ懸念されるのは最近ニュースで世間を賑わせているヒグマの存在…。実際に野生のヒグマに遭遇したことはありませんが、今回行った場所もヒグマ出没の立て看板があり、安全第一・細心の注意を払っての釣りとなりました。

一年振りということもあって、魚の引きや感触を確かめながら川を釣り上げて行きました。時折漂ってくる獣臭や、川を泳いで横断するアオダイショウに怯えながらなんとか脱溪地点へ到着。停めてあった車まで猛ダッシュで林道を駆け下りたことは内緒です。



札幌営業所(所長:清水 壮次郎)

名古屋に帰ってきて3ヵ月。休みの日には出掛けても買い物などで半日費やし、あっと言う間に1日が終了してしまいます。遠出は中々出来ていないので、近場のスポットを紹介。

それは、『戸田川緑地』です。戸田川緑地はその名の通り、名古屋市南西部の戸田川沿いに中川区から港区までつながる緑地公園です。農業文化園、ピクニック広場、こどもキャンプ広場など色々な施設があります。こどもキャンプ広場など一部施設は有料ですが、無料の施設も多い。

今回は『花の丘』に行きました。我が家から自転車でも10分くらいで行け、しかも無料。訪れたのは5月上旬でしたが、ネモフィラが満開で中々見応えがありました。8~10月にはコキアなども見頃になるとの事で、また見に来たいし、他の施設も行ってみたいと思います。

中日本営業所(部長:藤谷 弘行)

今回はうどん店のご紹介です。うどん発祥の地は博多か讃岐なのか。それはさておき、今回は讃岐うどんのお店をご紹介します。

今回行ったお店は『手打十段うどんバカー代』さんです。地元の人曰く、観光名所店になったので、行列がすぐくて連休の時など数時間待ちとかで、ほとんど行かないというお話でした。ですが、やはり一度は王道へということで出張時のお昼に行ってきました。

平日なので行列も少なかったのですが、店内はぎっしりでした。ただ、回転も速く、次々に人が入れ替わります。今回、わたしはこちらの名物『釜バターうどん』と、天ぶら二品を注文させていただきました。讃岐うどんの麺はコシがあつて、地元の方は噛んで食べるというより飲み込む、所謂『喉ごしを味わう』食べ方なのですが、そこは無理でした。しっかり噛んで食べました。

お腹一杯になり、大満足でお店を出ました。また行きたいですが、他の名店も沢山ありますので、うどん巡りをしてみたいと思います。そばも好きですが、やはりうどんもいいですね！

西日本営業所(部長:木下 敦裕)

今までインドネシア人は世界の動きはあまり気にしていませんでしたが、インターネット、Youtube、Tiktok、つまりソーシャルメディアなどのおかげで世界の出来事を簡単に知れるようになりました。もちろん、そのニュースの中には嘘のニュースもあることを認識しています。

中東でのイスラエルとパレスチナの戦い、アメリカと他国の貿易戦争、さらに一番最近のイランとイスラエルの戦争などなど、ニュースは頻繁にソーシャルメディアで見られています。もちろん、上記のニュースは経済成長に悪影響を与えることがほとんどです。

その一つとして、為替の変動は激しくなってきた、結果的に金の値段はこの一年でかなり上がっています。インドネシアのニュースにも載っていますが、金を買いたい人がものすごく並んでいて、場合によっては1~100gの金はすぐになくなり、「買いたい人は明日か明後日にまた来てください」と言われます。

定期預金、その他の銀行での投資、株の投資などはぐんと下がっていて、ほとんど金に切り替えて投資をしています。インドネシアの定期預金の利息は銀行によって微妙に違いますが、通常は年間3%ぐらいです。それに比べ、最近の金の価格上昇率は預金の利息以上のプラスがあるとされているため、たくさんの人は金を買っています。「金の価格はいつか飽和状態になって、また下がりますよ」という評論家の意見もありますが、今現在だけの状況を見ているので「とりあえず金を買いましょう」という人の意見がまあ強いみたいです。

KJI(インドネシア)(工場長:S.Akhyar)

~神の領域目指して~

地方出張や旅行の機会にその土地のさまざまな中華料理が味わえることは、中国生活の楽しみの一つです。中華料理も日々進化を続け、生まれて初めて食べる料理がまだまだたくさんあり、奥の深さを感じます。

一方、日本料理も人気はさらに高まり、私たちが仕事帰りに寄る居酒屋以外にも昨今では日本の牛丼チェーン、有名ラーメン店、焼肉レストランが次々にオープンしています。人々の食文化も確実に多様化しています。

そして、最近特に出店がさかんな店が回転寿司です。上海はもちろん、蘇州のショッピングモールにも日本の大手回転寿司店が次々にオープンし、連日行列のできる人気ぶりです。回る寿司の楽しさ、メニューの豊富さ、お子さんも喜ぶ楽しい仕掛けづくりなどが消費者をとらえ、どの店も大盛況です。ある店舗では来店回数や累計の消費金額に応じた優遇会員のプログラムが好評です。5段階で一番下が『赤食神』、最上ランクは『元食神』の称号が与えられ、お得な特典がたくさんつく仕組みです。私の知人にも『神の領域』目指して足しげく通う方がおられます。たまにしか行かない私はビギナー会員の赤食神、最上ランクまでは遠い道のりです。

KHE(中国・蘇州)(総経理:山本 博史)

~最近の『推しアイテム』をご紹介:AI時代の必須ガジェット！~

こんにちは、今日は最近ハマっている便利アイテムを紹介させていただきます。

ビジネスの現場でもAIの存在感がどんどん増していますが、特にアメリカでは、AIへの投資や技術開発、企業への導入スピードが圧倒的。世界をリードしているのがよく分かります。一方、日本はアメリカほどのスピード感はないものの、着実にAIを取り入れてきていて、特に一般ユーザーの生成AIの利用率や政府のサポート体制などが注目ポイントです。技術開発ではアメリカ、ユーザー視点や制度面では日本にも強みがあるという感じででしょうか。

そんな中で、私がいま愛用しているのがPlaud NOTE(プラウドノート)というAI搭載の録音・文字起こしデバイス。この小さなガジェット、すごいんです。会議や電話、インタビューなどをワンタップで録音してくれるだけでなく、その音声を自動で文字起こししてくれます。さらに、要約機能までついているので議事録作成が劇的にラクに！もちろん完璧とは言えませんが、ちょっと修正を加えるだけで実用性は十分。しかも多言語対応なので、海外とのやり取りにもぴったり。出張時やリモート会議でも大活躍しています。

興味のある方はぜひチェックしてみてください！

KCS(アメリカ)(GM:Ayano Donnelly)

シンガポールの公共交通機関は、人々が車を所有する必要なく安心して利用できるように整備・運営されています。それでもなお、目的地に早く到着するために料金を支払う意思のある人が多いため、タクシー業界は非常に収益性の高い産業です。

タクシー運転手は賢いことで知られています。彼らはより多くの収入を得るためにシステムを活用します。ピーク時には、道路沿いでタクシーを拾うのは容易ではないため、オンラインで連絡して追加料金を支払う必要があります。タクシー運転手が、道路沿いを運転したくないというとても理解しづらい理由なのです。運転手が本当に賢いという例も数多くあります。しかし、昔のようにタクシーを拾う時代は過ぎ去りました。彼らの態度は今も変わらないものの、Grabのようなタクシーアプリのおかげで顧客の選択肢は増えました。最近では、正規のタクシー会社の代わりにタクシーアプリを利用する人が増えています。

タクシー会社は、顧客に選択肢がないことから長らく好景気に恵まれてきました。しかし今、厳しいビジネスの現実と直面しています。タクシー会社は生き残れないかもしれないし、おそらく事業規模は縮小するでしょう。しかし、私は顧客がタクシー運転手の態度に縛られる必要がないので、今の選択肢に満足していると信じています。

KIO(シンガポール)(E.Wong)

2020年に、イギリスはEUを離脱しました。これはBrexit(ブレグジット)と呼ばれています。この5年間で多くの出来事がありましたが、ある展示会をきっかけに、私たちは現在の状況がどのようになっているのかを改めて実感せざるを得ませんでした。

イギリスにサンプル品を持ち込むには、EU圏外であるため、税関の書類が必要になります。残念ながら、5年経った今でもEUからイギリス、そしてイギリスからEUへ商品を輸送するのは依然として複雑です。型にはまった方法だと何時間も費やしてしまうという厳しい教訓を得ました。

また各国の税関は、一部規則やガイダンスが明確でないところがあり、正しい情報を見つけたり、正しい行動をとったりすることがさらに複雑です。展示会が成功した後、正しい手続きをして国境を通過するために何時間も費やし、白髪が増えてしまいました。

結局のところ、知っていればそれほど複雑ではありません。次は今回の経験を活かせば簡単にできるでしょう。しかし、知識がなければBrexitから5年経った今でも、自力で解決しなければなりません。これは『自由な』旅行の重要性を改めて証明するものであり、今回の旅行中に話したイギリス人からも同様の意見を聞きました。EU離脱にはメリットもありますが、人々から現状を聞くと、デメリットの方が大きいと感じます。

KIO(オランダ)(Ferri Visser)